令和２年度日本教職大学院協会研究大会「実践研究成果発表」における発表教職大学院等について

第１会場

（２）13:40～14:10　岩手大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
現職教員の資質向上のための行政機関における専門実習とリフレクションの役割	
佐藤　　進　（岩手大学教職大学院特命教授） 若松　優子　（岩手大学教職大学院現職院生）	実地研修として，教育委員会をはじめ様々な行政機関において15日間の専門実習を取り入れ，これからの学校教育をリードするための専門的力量を備えた，管理職及びミドルリーダーの育成を図っている。 また，実習経験を概念化するための「リフレクション」を週末に必修科目として設定し，実践知と理論知を融合させ確かな力量形成につなげるよう工夫している。 様々な視点での専門実習とリフレクションを連携させながら，今日的な教育課題に応えうる高度な専門性と，高い志を有した人材の育成に向けて取り組んでいるところである。

（４）15:00～15:30　新潟大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
「教科教育高度化分野」における教科の実践的指導力高度化のためのカリキュラム開発研究	
宮薗　　衛　（新潟大学教職大学院教授） 石川　　治　（新潟大学教職大学院特任教授） 垣水　　修　（新潟大学教職大学院教授） 伊野　義博　（新潟大学教職大学院教授） 阿部　好貴　（新潟大学教職大学院准教授） 大庭　昌昭　（新潟大学教職大学院准教授）	本学教職大学院では、平成31年度に教育実践コースに「教科教育高度化分野」を新設し、選択科目「授業改善と学習評価」を人文・社会系、数理系、芸術･体育系毎に前後期各１科目開講した。本授業科目の特徴として、①カリキュラム全体における本授業科目の位置、②３つの系毎に教科専門の充実と教科間連携を志向する授業、③大学院教員と附属学校教員の共同指導が挙げられる。本発表では(1)分野開設の背景と本授業科目の特徴、(2)授業科目運営の実際、(3)教科の実践的指導力高度化のためのカリキュラム開発の現状を報告する。

第２会場

（１）13:00～13:30　秋田大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
教職大学院と教育委員会の連携による「管理職育成とミドルリーダー育成支援プログラムの開発」	
鎌田　　信　（秋田大学教職大学院教授） 田仲　誠祐　（秋田大学教職大学院教授）	今後、次期管理職層が薄くなる傾向があることや、十分なマネジメント経験を持たずに管理職に登用される教員が増加することが懸念されることから、教職大学院の資源を活用した管理職着任前研修の充実を図るプログラムを開発し試行する。また、学校経営を安定的に推進するためにはミドルリーダー層の育成が急務であるため、現職教員の教職大学院の授業履修を認め、「履修証明書」を発行することにより研修履歴として活用出来るシステムの構築と実施上の課題を明らかにする。教職大学院と教育委員会とが連携して本プログラム開発を行うことにより、現職教員の力量アップに貢献する。

（３）14:20～14:50　上越教育大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
校内研究への協働的な「介入」による、教員と院生の変容	
松井千鶴子　（上越教育大学教職大学院教授） 高橋　栄介　（上越市立大町小学校教諭） 田嶋　里菜　（上越教育大学教職大学院学生）	連携協力校が設定する研究主題の具現に向け、協働的な「介入」を試みた。連携協力校の教員の実践に対し、理論や方法をトップダウンに適用するような直線的な介入ではなく、連携チームが研究対象となる教員や組織と長期的にかかわり、両者に相互利益がもたらされるようなパートナーシップを築いていく「介入」を目指した。教員のカリキュラム・マネジメントの実際や「行為の主体性」の変容、院生による共感的な対話の実際や納得解を見出していく取組による院生の協働力等の変容について紹介する。

（５）15:40～16:10　早稲田大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
教員養成段階における「学校マネジメント教育」プログラムの開発研究	
岡田　芳廣　（早稲田大学教職大学院教授） 小山　利一　（早稲田大学教職大学院教授） 高橋あつ子　（早稲田大学教職大学院教授） 三村　隆男　（早稲田大学教職大学院教授） 遠藤　真司　（早稲田大学教職大学院客員教授） 細谷　美明　（早稲田大学教職大学院客員教授） 羽入田眞一　（早稲田大学教職大学院客員教授）	本研究では、カリキュラム・マネジメントをはじめとする「学校マネジメント教育」を教員養成段階で展開するプログラムの開発を行った。昨今の首都圏を中心とする教育管理職希望者減少を背景とする人材育成の必要性、及び2017年に実施した全国教職大学院の学部等新卒学生調査（回収率49.7％）による、教職大学院授業における教育管理職教育への4分の3の肯定的な回答結果、を背景としている。2019年にはプログラムを展開するための教科書を出版し、2020年度からは免許更新講習及び、教職大学院での新設授業「学校マネジメントの視点から見た学校教育研究」において使用している。

第３会場

（２）13:40～14:10　富山大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
外部との協働体制による教職大学院の研修プログラムの開発	
竹村　　哲　（富山大学教職大学院教授） 林　　誠一　（富山大学教職大学院教授） 成瀬　喜則　（富山大学教職大学院教授）	子どもの主体的・対話的で深い学びを促す教師であるためには、まず教師自身がこの新しい学習観を経験し、その力を養っていくことが求められるという認識のもと、富山大学教職大学院人間発達科学部附属特別支援学校と連携して「学びあいの場」と称する教員研修プログラムを開発している。 また、総合教育センターの調査研究事業と連携し、院生は調査研究の協力スタッフとして、研究協力校で実習を行っている。さらに、教育委員会と連携して、採用前研修や教員養成講座、児童・生徒の論理的思考力や問題解決能力などを伸ばす取り組みに参画している。

（４）15:00～15:30　愛知教育大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
愛知教育大学教職大学院改組前後における、理論と実践の往還に関する取組	
松井　孝彦　（愛知教育大学教職大学院准教授） 松永　　豊　（愛知教育大学教職大学院教授）	第13期生を迎える今春より、愛知教育大学の教職大学院は新しい教育課程を実施している。学部との教育の一貫性と、愛知県教育委員会及び名古屋市教育委員会との連携強化を図り、新たに４コースを設置して、高度化推進、実践力向上、地域貢献力育成を目指している。 本発表では、新しい教育課程を、理論と実践の往還の視点から紹介した後、まだ１年未満ではあるものの、特に改組前から特に大きく変化をした「教科指導重点コース」及び改組後に新しく設置された「地域・教育課題解決コース」の教育の実際について報告をする。

第４会場

（１）13:00～13:30　岡山大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
教職大学院における教科教育領域のあり方の探究	
高瀬　　淳　（岡山大学大学院教育学研究科教授） 小林万里子　（岡山大学大学院教育学研究科准教授） 宮本　浩治　（岡山大学大学院教育学研究科准教授） 岡崎　正和　（岡山大学大学院教育学研究科教授）	本発表は，「教職大学院教科教育コアカリキュラム及びその質保証に関する調査研究」（日本教職大学院協会，2020）（以下，「報告書」）の批判的検証を行うことを目的とする。「報告書」で紹介された優れた取り組みは，修士課程の科目を教職大学院的な科目名称に変更し，教授方法を変更しただけのものが見られる。「教科等の実践的指導方法に関する領域」に関する科目をいかに開発し，カリキュラムを編成するのかは課題のままである。本発表では，岡山大学教職大学院の取り組みを報告し，カリキュラム開発のための視座を提供する。

（３）14:20～14:50　広島大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
教職大学院生によるアメリカの小中学校での授業実践研究の取り組み	
松浦　武人　（広島大学教職大学院教授） 木下　博義　（広島大学教職大学院准教授） 木佐木太郎　（広島大学教職大学院准教授） 青木　理恵　（広島大学教職大学院学生） 槙埜　裕子　（広島大学教職大学院学生）	海外の学校において授業実践研究を行い、高度な実践的指導力を育成するとともにグローバル教育推進に必要な資質・能力を育成することを目的とした授業科目「海外教育実地研究」について、事前研究（授業テーマの検討、和文・英文指導案の作成・検討、模擬授業による検討等）、教育実地研究（アメリカの小中学校における授業実施・反省、教育機関の見学）、事後研究（授業実践のデータの整理と考察、体験報告会）の概要、取り組みの成果と課題、参加院生の自己変容等について発表する。

（５）15:40～16:10　高知大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
高知大学教職大学院における教育研究の在り方の探究 －教育/教育実践を科学的手法で捉えられる力と学校課題解決力の養成－	
柳林　信彦　（高知大学教職大学院教授） 森　　有希　（高知大学教職大学院准教授） 柴　　英里　（高知大学教職大学院准教授）	高知大学教職大学院は、「高知県の教育課題に資する」「理論と実践の融合、教育/実践を科学する」を理念として、教育の提供を行ってきた。 本報告では、「総合実践力科目群の配置」「現職教員3カ年計画による派遣」「実習コーディネーターによる県との連携」「データサイエンスに関する授業科目の配置」等の専攻の特徴を概説しつつ、「自身の教育実践を科学的な視点・考え方で捉え、科学的・研究的な手法・技術で検証することを通して、実践を深化させていける専門家の育成」という令和4年に予定されている専攻改組の理念の検討を通して、教職大学院における教育・研究の在り方を探求したい。

第５会場

（２）13:40～14:10　熊本大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
Society5.0時代に求められる資質能力を育成するための情報教育実践研修の取組	
藤中　隆久　（熊本大学教職大学院教授） 前田　康裕　（熊本大学教職大学院准教授）	Society5.0時代に求められる資質能力を育成するために月に一度のオンライン情報教育研修会を小中学校の教職員を対象にして実施している。そこでは、小中学校の学校現場でのオンライン授業の実践事例やタブレット型端末を活用したプロジェクト学習の事例などを取り上げながら、意見交換を行う双方的な研修になるように取り組んできた。特にオンライン授業の取組はニーズが高く、4月の研修会では286人、5月の研修会では239人の参加者があり、全国的な規模の研修会となった。

（４）15:00～15:30　琉球大学教職大学院

発表題目・発表者（所属及び職名）・発表概要	
共生社会の実現を目指したカリキュラム・実習等の工夫・改善 －全ての障害種に対応した連携協力校（９校）との連携・協働を通して－	
城間　園子　（琉球大学教職大学院准教授） （琉球大学大学院教育学研究科高度教育実践専攻）	「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」が提示されて久しい。沖縄県においても推進を図ってきたが、その現状は厳しく課題が山積している。琉球大学教職大学院では、特別支援教育に関する本県の課題を踏まえ、県教育委員会及び学校現場と連携を図りながらカリキュラム等の改善に努めてきた。特に、全院生が５障害種の連携協力校で実習を行う機会を設けるなど、すべての教員が特別支援教育への理解を深める取り組みを実施している。

（注）進行の状況により、発表時間が若干変更になる場合があります。